

Together における意見集約の傾向

笠谷 啓

近年ソーシャルネットワークサービス（SNS）の利用者が急増している。今後我々の社会はインターネットの存在を前提として進んでいくことが予想される。ソーシャルメディアとは、誰もが参加でき、自身が発信した情報を他人に伝わることでコミュニケーションが生まれるメディアで、SNS はこれを実現している。Twitter は、代表的な SNS の一つであり、ツイートと呼ばれる 140 文字のコンテキストを投稿できるマイクロブログである。Twitter の利用者数は 1000 万を超え、情報源としての社会的な影響力の大きさが窺える。日々投稿されるツイート数は膨大であり、関心のあるトピックのツイートを全て読むことは、多くの場合、現実的に困難なことから、Together でそれらの一部を読むことで情報要求を満たそうとする利用者也存在する。Together とは、Twitter 上のツイートの中から利用者自身の手によって自由にコンテキストを抽出しまとめた、所謂キュレーションしたものを広く公開するメディアとしての側面を持ったプラットフォームである。ここで問題となるのが、あるトピックについてまとめた Together の記事は、そのトピックのツイート群を偏りなく抽出しているかという点である。Together のまとめが大きく偏っている場合、Together の記事作成者の故意にせよ、そうでないにせよ、記事で抽出されたツイートだけ読む利用者に誤解を与える可能性が生じる。これまで Twitter を対象にした研究は数多くなされてきているが、Together における「ツイートの抽出の傾向」そのものに着目した研究はほとんどなされていない。本研究では上述の問題意識のもと、Together における意見集約の偏りの有無・程度を明らかにすることを目的に、25 のトピックを対象にして Together の記事とツイート群全体の傾向を比較した。

Together で作成されやすいトピックを中心に、それに関連する Twitter 上のツイートを Twitter API を利用し収集した。収集したツイート群および Together の記事について、(1) 出現頻度に基づいて重要度を算出したキーワード、(2) 手作業による内容の分類という 2 つの観点から比較を行い意見集約の傾向を調査した。キーワードの比較を 25 件の記事で行い、手作業による分類の比較を 2 件の記事で行った。その結果、ほとんどのトピックに関して、ツイート群全体と Together の記事の傾向に差異が見られた。Together の記事作成者が「無作為に抽出」と説明している記事においても偏りが存在していた。

本研究は、一定期間に引きだした Twitter のツイート群と Together の記事とを比べたものであり、Together でまとめられた情報がどのように伝搬していったかという「その後」の経緯は対象としていない。そのため「偏った記事が実際に利用者に誤解を与えたか」を明らかにするには至っていないが、その危険性を示唆する結果は示せたと考える。

(指導教員 芳鐘冬樹)